

闘争保安転運に悲しみをのり

日刊 勤労千葉

84. 4. 8

No. 1613

国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五六・（公衆）〇四七二二七二〇七

悲しみと怒りにつつまれ 四月二日 故・平野雅夫君告別式



ありし日の 故・平野雅夫君 (享年 35 歳)



悲しみ、怒り…… 300名の参加した仲間は、壺前に復讐を誓った。

四月二日、悲しみと怒りのなか、故・平野雅夫君の告別式がしめやかにとり行われました。生前、彼がその短かった人生を仲間と共に送った勝浦支区よりほど遠くない勝浦市墨名の自宅には、勝浦支部の勤務以外の全組合員をはじめ、中野委員長他本部全役員、そして全支部からの役員・同期生等の多くの仲間、三〇〇名がかけつけ、無念の想いをかみしめつつ故・平野君に別れを告げました。

動労千葉を代表して弔辞を献げた中野委員長は、「平野君をこのような無残な死に追いやったものは誰か、私はあらためて心よりの怒りをおさえることはできません。当局は、乗務員からの切実な踏切改善要求を放置し、国鉄労働運動の破壊にのみ奔走してきました。事故直後の怒りにもえた抗議交渉において、国鉄当局はなんと一週間位で当該踏切を改善する旨を答弁しました。もう一週間早く実施していれば平野君は死なずにすんだのです。まさに国鉄当局の責任は重大であると言わねばなりません」と怒りをこめて当局の非人間的対応を弾劾し、運転保安確立・合理化反対の闘いを強化し、二度とこのような悲惨な事故をくり返さないことを霊前に誓いました。焼香のあと全参列者が沿道に並び、十四時、故・平野君を送りました。

3月30日を忘れないで

4/2 勝浦支部で追悼集会

勝浦支部 通信員・発



三月三十日、平野雅夫君の突然の事故死の非報が知らされて以降、勝浦支部は深い悲しみと激しい怒りに包まれています。平野君を殺したのは誰だ！国鉄当局が運転保安について、われわれの意見を素直に聞き、真面目に取り組んでいたなら、平野君は死なずにすんだのだ！われわれは、平野君を奪われた悲しみと、当局への怒りで心の中ははりさけんばかりであります。平野君を自宅で見送った四月二日の告別式終了後、十四時二十分より勝浦支部主催の「故・平野雅夫君追悼集会」が開催されました。



平野君虐殺に闘いをもって応える
—— 鶴岡支部長、闘いを宣言 ——

この日、葬儀に参列した全支部からの多くの組合員、勤務を終了してかけつけた勝浦支部の仲間、本部役員、それに三里塚よりかけつけられた反対

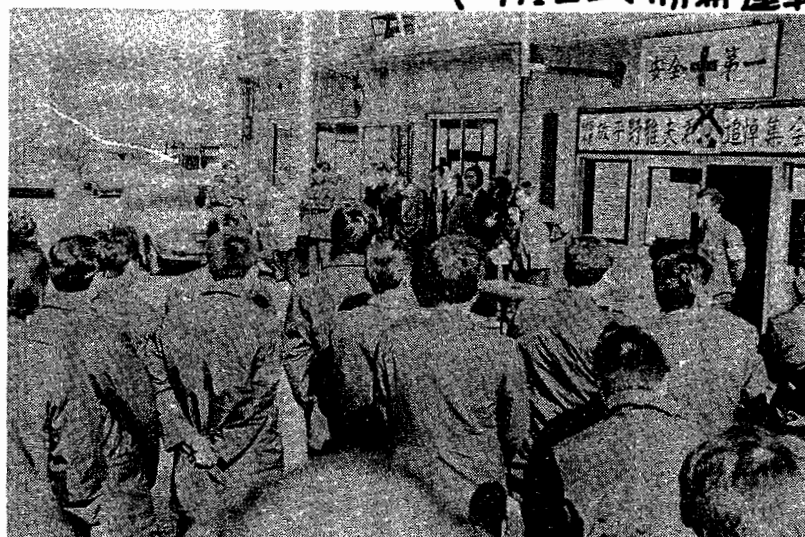
同盟の北原敏治事務局長と鈴木幸司芝山町議も参加してまれたた追悼集会は、鶴岡芳弘書記長の司会で始められました。

主催者を代表してあいさつにたった鶴岡直芳支部長は、「われわれは悲しみといきどおりで一杯だ。平野君は残念だろう。くやしいだろう。細代踏切

(裏面へつづく)

故平野雅夫君追悼集会

虐殺の責任者=当局を弾劾し、追悼と闘いの決意をのべる中野委員長。
(4月2日、勝浦運乾区)



中野委員長、北原事務局長、藤本支部
乗務員会長、等よりあいさつと決意

続いて、本部・中野委員長が、「故・平野君の事故は永山の一角である。当局は乗務員が危険だと指摘しても、予算がない等の理由をたてになかなか改善しない。ならば、われわれは、われわれと乗客の生命を守るため、自衛手段を断固踏みこんでやらなければならない。われわれは再三にわたって、今日の合理化攻撃、あるいは職場規律という名のしめつけの攻撃が必ずつかい事故に結びつく」と指摘してきた。平野君の死をしっかりと見つめ、今一度心を新たにして運転保安闘争にまい進しなければならぬ」と決意をこめあいさつしました。

その後、大岩乗務員分科副会長、急拠かけつけてくれた三里塚空港反対同盟の北原事務局長、鈴木幸司氏よりそれぞれ追悼のことばをうけ、笹生館山支部長、永田千葉転支部長の決意表明がされたあと、藤本支部乗務員会長より、「昨日私は出勤するとき娘が『お父さん、この際踏切では電車が一旦停止した方がいいんじゃないの』と叫びました。このような家族の切実な願いを当局はどのように受けとめるのでしょうか。われわれは、自分自身の生命を守るためにも、乗務員分科の総力を上げ闘うことを誓います」と力強い決意が述べられました。

「平野君、3・30を胸にわれわれは
闘い進むぞ！」

最後に、照岡副支部長より当局を糾弾する決議文が読み上げられ、平野君を虐殺した当局への怒りにふるえることばで「団結ガンバロー」を三唱しました。

59・2ダイ改、さらに動乗勤改悪にも見られるように、今、臨調合理化攻撃は歯止めをはずして襲いかかってきています。こういう状況は結果として何を生み出すのか、労働強化だけではなく、今回のような悲惨な事故へ結びつくのは明白であります。われわれは「3・30」を忘れず、運転保安確立へ全力でまい進しなければなりません。

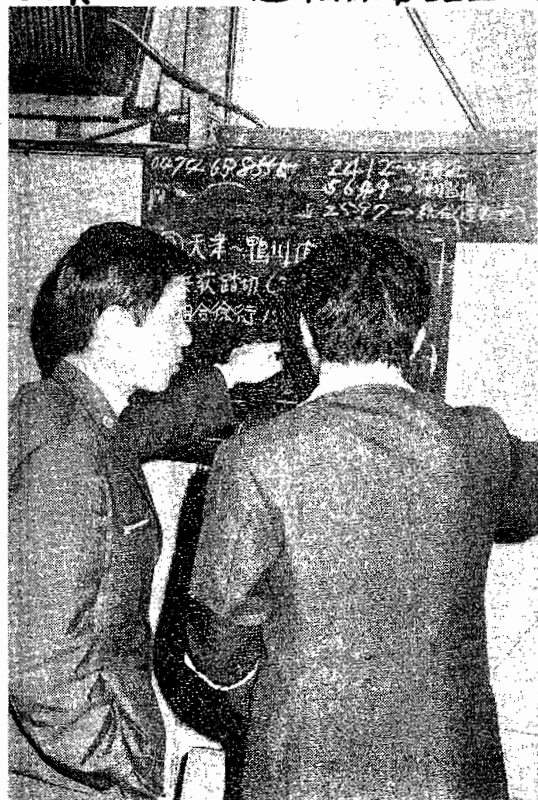
は、過去六回の事故が発生しており、昨年一月以降でも四回という危険踏切です。今年二月十九日、五度目の事故が発生したとき、国鉄当局は『早急に改善します』と答弁していた。しかし、それが一カ月を過ぎ二カ月を過ぎても一向に改善しようとしなかった。この事故は起こるべくして起こった重大な当局の責任事故に他ならない」と怒りをこめて当局を弾劾し、徐行と喪章着用の抗議行動拡大の「指令第十五号」を読み上げ抗議行動の強化を宣言しました。



直ちに怒りの対当局抗議交渉 (3月31日、4鉄局団交室)

全支部代表と40名の全員喪章の勝浦支部組合員は激しく当局を追及した。合理化優先・人命無視の当局はわれわれの正当な要求の前に、施策・方針の見直しを迫られている。

平野君の無念をわがものとし、 全員が反合・運転保安確立の闘いへ決起 (3/30「指令14号」 3/31「指令15号」)



喪章着用、危険踏切(組合で8線・川所を指定)での気笛吹鳴・組合最徐行、等の運転保安自衛行動を続行する800名の乗務員仲間。